

大阪府における
保護上重要な野生生物
—大阪府レッドデータブック—

普及版

大阪の自然 ガイドブック

Guidebook of Nature in Osaka

- 4 01 大阪の生きもの
6 北部 8 中部 10 南部
- 12 02 生きものと環境
14 林の環境 22 川の環境 30 池の環境 34 湿地の環境
38 草地の環境 42 干潟^{ひがた}の環境 46 市街地のみどりの環境
- 48 03 観察のガイド
50 林で観察 58 川で観察 62 池で観察 68 湿地で観察
72 草地で観察 74 干潟^{ひがた}で観察 78 市街地のみどりで観察
- 82 04 保全活動
84 和泉葛城山^{いずみかつらぎさん}ブナの森 85 三草山^{みくきやま}ゼフィルスの森
86 地黄^{じおう}湿地や信太山^{しのだやま}湿地 87 八尾^{やお}水辺エコアップ
87 身近な^{さとやま}里山
- 88 05 大阪府における保護上重要な野生生物 目録
—大阪府レッドデータブック—
90 ほ乳類 91 鳥類 94 は虫類 95 両生類 96 淡水魚類
98 昆虫類 104 陸産貝類 105 淡水産貝類 107 植物

コラム

- 20 遷移^{せんい} 24 わんど 55 台場クヌギ^{だいば}
73 バッタとキリギリスはどう違う？ 76 干潟^{ひがた}とそこにすむ生きもの

◇写真には通し番号がついています。ページの下には、通し番号と対応した形で、写真提供者の名前をのせています（敬称略）。

01 大阪の生きもの

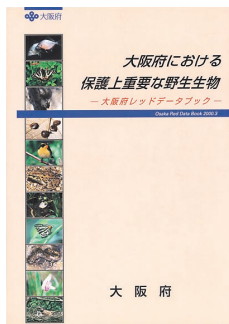
大阪は、北は北摂山系^{ほくせつさんけい}、東は金剛生駒山系^{こんごういこまさんけい}、南は和泉葛城山系^{いづみかつらぎさんけい}と、三方を山に囲まれ、平野部には淀川や大和川など大小さまざまな河川が流れて、大阪湾にそそいでいます。

都市化が進んだとはいえ、森林、農地、河川から海にいたる多様な自然環境には、多くの野生の生きものがすみ、それらの生きものは互いに密接に関係しあいながら、自然環境そのものをつくりあげています。

古くから経済・文化の中心として栄えた大阪は、この豊かな自然環境の恩恵^{おんけい}を受け発展してきました。しかし、近年の急激な都市化^{きゅうげき}の進展^{しんてん}や、生活様式の変化などによって、私たちの身近にあった自然は年々失われつつあり、そこにすむ生きものの生存^{せいぞん}がおびやかされるようになってきました。

平成12年に発行された「大阪府野生生物目録」並びに「大阪府における保護上重要な野生生物—大阪府レッドデータブック—」によると、大阪には、ほ乳類が33種、鳥類が365種、は虫類が20種、両生類が18種、淡水魚類が130種、昆虫類が5,567種、陸産・淡水産貝類が156種、植物が2,436種、合計で8,725種もの生きものが確認されています。そのうち、絶滅のおそれのある種など保護を進めるうえで重要な生きものが896種と、約1割にあたることわかりました。

この中には、メダカやドジョウ、ゲンゴロウ、ナニワトンボ、フクロウ、秋の七草の一つであるフジバカマなど、今ですぐ身近にいたはずの生きものが、いつの間にか絶滅のおそれのある種になってしまっている例が少なくありません。



大阪府における保護上重要な野生生物
—大阪府レッドデータブック—
(大阪府,2000)



1. ナニワトンボ

これらの生きものは、私たちみんなの財産^{ざいさん}として大切にまもっていく必要がありますが、そのためには、まず、生きものや生きもののすんでいる自然環境を良く知る必要があります。そして、私たち一人一人がそれぞれの立場で、それらをまもるために努力することが大切です。

この冊子^{さっし}は、生きものや自然環境についての理解を助け、それらをまもる活動の手引きとなるよう作成しました。

それでは、大阪を北部・中部・南部と大きく三つに分けて、それぞれの地域の生きものの特徴をみていきましょう。

